

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	こどもひろばeポーポー				公表日	令和7年12月29日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		活動により、机の配置変更や椅子を違う部屋に移動するなど、その都度活動内容により広く使用できるように行っている。	スペースは適切ではあるが、学習スペースやオムツ替えスペースがある為、活動内容によっては狭さを感じている。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		利用者状況に応じて職員配置を勤務表にて行っている。	個別対応が必要な場合や、職員の病欠において、多めの人員配置を行えるよう検討していく。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。		○	情報伝達は全事業所、各事業所情報共有をグループラインや電話にて共有し洗面所、女子トイレ以外はバリアフリーになっている。	車いすの使用の場合洗面所に段差がありまたトイレが狭い為、抱えてトイレに入るなど課題ある為、検討していく。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		それぞれの遊びや活動等の住み分けに難しい時がある為、範囲を決めて分ける工夫を行っている。絨毯が汚れた際、絨毯を洗浄できる掃除機を購入し行っている。消毒・掃除を毎日行っている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		学習スペースとクールダウンができる空間をパーテーション等を利用し個室とし利用し設けている。	パーテーションの数が少ない為、購入を検討していく。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		日々の業務の中で振り返りを行える場をグループラインや、療育前、送迎後行っている。	グループラインや場を提供し行っているが、人によって認識の薄さがみられる。職員のモチベーション向上を図っていく。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		毎年評価表を配り保護者評価表を事業所で会議をし改善方法を共有し対応する工夫を行っている。	評価表を参考にその都度、業務改善に取り組み考慮していく。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		事業所内で意見交流や情報共有を行い業務改善に繋げている。	職員全員が意識を持ち意見を出し全体で把握できるよう意識をもっていく。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○	第三者による評価は実施していない。	今後の課題とします。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		法人内等で月に1度以上の研修、新人研修、スキルアップ研修を行っている。	地域や広島県で開催している研修の把握を行い、積極的に参加していく。
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		ホームページにて公開している。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		家族支援で課題等把握し、計画書を作成している。	送迎の際、保護者や学校職員、また相談員と連携を取りながら行っていく。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		作成にあたり、職員で会議を行い、利用者の情報や支援について共有している。	利用者の支援の仕方を統一していく事で一貫性のあるサポートを提供していく。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		計画書が変更になった場合、職員間での共有を行っている。	計画書は比較的共有しているが時折食い違いや状況把握できていない職員がいないように連携を図っていく。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		日々の状況を記録に残し確認できるようにし、送迎後、利用者の様子を共有し確認している。	利用者の情報等、最新の情報を把握していく。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		個々に対し、必要な支援、具体的に設定していく為に、個々の情報収集に努めている。	利用者により良い支援になっていくよう具体的支援を明確にし作成していく。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		活動意欲を高める為にも、利用者職員みんなで考えて行っている。	引き続き人に任せないよう、全員で行っていく。

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		固定化しないよう、SNSの情報を取り入れ工夫している。	活動内容や個々の状況により難しい作業などは、クオリティを下げ自身で行う事で達成感を感じていけるよう改善していく。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		利用者の環境や個人の課題を見極め、利用者がそれぞれ自分らしく伸びるよう比率に気をつけている。	個別活動や集団活動での環境づくりを行っていく。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		出勤していない職員に情報共有の漏れがないよう、グループラインで連携している。	伝達ミスや見落としがないか、時間に余裕をもって打ち合わせしていく。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		出勤していない職員に今日の振り返り、気づいた点をグループラインで共有している。	意見交換する職員とそうでない職員が見受けられる為、みんなが意見できる風通しの良い職場環境を目指していく。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		毎日の支援記録を必ず残し、個別支援計画や支援の仕方に繋げている。	パートさんにもみる機会を設けていく。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		モニタリング前に職員と会議を行い、計画の見直しに役立てる工夫を行っている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	○		自分でできるを実感できるようにサポートし主体性に参加できる企画と一緒に考えるようにしている。	地域交流の機会が少ない為、長期休みに役場や福祉センター等での活動イベントも検討していく。
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		判断が難しい利用者や苦手な事を行う時、2~3の選択肢を与え自身で決定するような場を提供する工夫を行っている。	本人の気持ち尊重できるような対応を統一していく。
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		児童発達管理責任者が参加できるよう日程を調整している。	参加が困難な時間帯もある為、人員の確保に努めていく。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		できるだけ参加できるよう、日程の調整に努める工夫を行っている。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		迎える職員は、先生となるべく連携を取り利用者の情報共有を行え時間を考え、送迎時間に余裕をもたせるように工夫をしている。	利用者の担任、副担任の顔、名前、学年、クラスを一覧にし把握できるようにする。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		該当している利用者が現在いない為行っていません。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○		会議に参加できない場合など、相談員や障害福祉サービス事業所と電話連絡にて、情報共有を行う様に工夫している。	会議の参加に多く出席できるよう、人員配置に努めていく。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○		現在行ってない。	今後の課題とします。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○		交流できていない。	今後の課題とします。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○		他事業所の職員が行った際は、各事業所に情報共有を行って、職員にフィードバックしています。	参加する機会を増やしていけるように検討していく。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		主に送迎の際に、家族支援を行い利用者の状況共有や課題に保護者と連携を図り記録し情報共有を職員間で行うよう工夫している。	
35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		現在行えていません。	今後の課題とします。	
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		見学、契約、運営規定の変更があった場合、どの職員でも保護者に統一した説明ができるようにしている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		家族支援などで直近の本人の状態や保護者の意見を取り入れ可能な限り努めるようにしている。	どの職員でもいけるよう、保護者との信頼関係の構築に努めていく。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○		変更前と変更後の支援の仕方等、分かりやすく伝える工夫を行っている。	

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		定期的に家族支援や関係機関連携を行い支援にあたるような体制をとっている。	今後も必要に応じて対応を心掛けていく。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。		○	現在行えていません。	
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		事業所内にて情報共有を行いながら、今後の同じ繰り返しがないよう、解決案や対応案を行っている。	職員全員が注意喚起していくよう努めていく。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		HPにて公開し毎月通信とだよりにて保護者に活動の様子や行事予定をお伝えしている。	インスタやツイッターなどの公開は今後の課題とします。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		予め、ホームページやポータル通信への写真等個人情報への書類を記載して頂いている。書類関係の個人情報などは、全てシュレッダーしている。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		利用者には分かりやすく視覚支援やジェスチャーで意思の疎通を行ったり、情報共有できるようにしている。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○	現在行えていません。	今後の課題とします。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		職員は研修や利用者と一緒に実践訓練をし、対応できるよう備え、ポータル通信にも記載し保護者にも周知徹底している。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		利用者、職員で消防署に行き、避難器具の使い方や実践練習について学ぶ工夫をいっている。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		てんかんがある利用者に対し、書面にて記載してもらい、従業者全員対応できるように努めている。また服薬等変更がある場合伝えてもらうようお伝えしている。	近状について共有し対応できるよう、ミーティングを行っていく。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。		○	アレルギーが起こらないよう、本人の情報を保護者からしっかりと聞き把握している。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		訓練、研修を行い、職員の安全の意識向上に努める。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		ポータルだより等で写真を載せ、保護者に分かりやすく、周知している。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		事業所内にてヒヤリハットを行い、全事業所で共有し解決策や対応策を考案している。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		研修は全員行い、1人の職員に負担がかからないように、交互に職員を変えている。またヒヤリハットがある事で虐待防止に繋げている。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		強度行動障害がある利用者の保護者には先に説明し個別支援計画書に記載を行うようにしている。		